



選ばれるまち。いなな、いなべ。

INABE BRAND 2021

CHECK!

いなべ市の魅力的なモノ、
コト、行政サービスをご紹介します

三重県いなべ市



INNERBAY

いなべブランドロゴ

INABEのIとBの文字をモチーフに、人と人が支え合う姿と、青は豊富な水が流れる員弁川、オレンジは躍動する市民の活力、緑は自然豊かな大地を表現しています。

THIS IS INABE BRAND

選ばれるまち。
いなな、いなべ。

Contents

いなべブランドとは	6
既存ブランド事業	10
● ママ元気 赤ちゃんすくすく	11
● どこでも子育て支援！	12
● 生きる力をつなげるチャイルドサポート	13
● 検診、発見、元気なからだ	14
● 健診受けて湯かった	15
● 「からだ」も「地域」もゲンキに！～元気リーダー大活躍～	16
● 住み慣れた地域で安心した生活を	17
● レインボーフラッグが掲げられる社会に！	18
● 美しい水環境の創出	19
● 地域のHERO消防団	20
● 納税意識の高いまち いなべ	21
● 地域と共に育つ学校	22
● ICTで学びをサポート	23
● 9年間の学びと育ちを見据えた教育を	24
● ふるさとの川にすむネコギギを守ろう	25

Contents

- プールで育む子どもの元気～安全と笑顔～ 26
- 地域で見守る子どもの成長 27
- 全国初！楽器を寄附するふるさと納税 28
- 世界のプロサイクリストが集うまち いなべ 29
- 「いなべの里の蕎麦」全国への挑戦 30
- 青川の清い流れと緑で…元気注入！ 31
- 農業公園発！スローライフとロハスな暮らし 32
- まちづくりの拠点施設 にぎわいの森 33
- リンクでつなげよう 市民の輪 34
- Webを活用したクロスコミュニケーション 35
- 先進的文書管理「ファイリングシステム」 36

終了したブランド事業 38

いなべ市について 42

THIS IS INABE BRAND

いなべ
ブランド
とは

いなべブランドとは

いなべ市では、いなべ市総合計画で掲げる「住んでいな！来ていな！活力創生のまち いなべ」の実現に向けて、いなべ市民やいなべ市を訪れた人に「いなべ市は本当にいな！」と実感していただけるように、日々、行政サービスの品質向上に向けて創意工夫（挑戦）を行っています。

現在、少子高齢化や人口減少の進行、大規模災害の発生など、社会全体として、激しく変化する潮流時代にあります。このような時代において、安心して住み続けられるまちづくりを進めるためには、市の職員一人一人が社会の実状を見極め、最善の行政サービスを提供していく必要があります。

いなべ市は、高水準で市として誇れる行政サービスを「いなべブランド」と称し、職員全員がこのいなべブランドの認定※を目指し、業務改善に取り組んでいます。

この職員の業務改善への挑戦によって生まれたいなべブランドを本冊子にまとめ、いなべの強みとして情報発信していくことで、効果的に市民の満足度及び市内外のいなべ市に対するイメージ向上を図り、高い評価をいただくことで、更なる業務改善意識の醸成に繋げています。

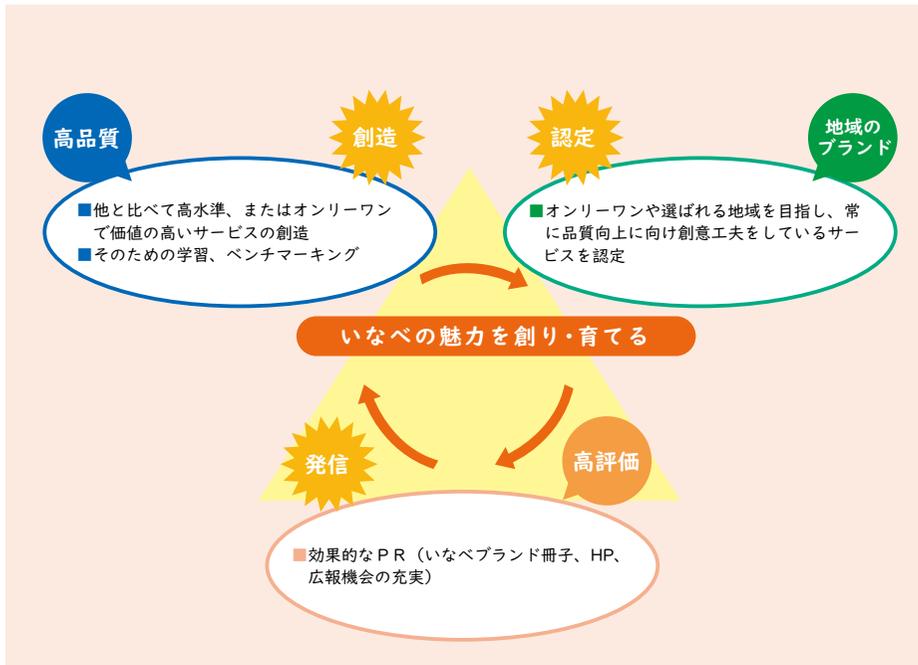
いなべブランドを創出することで生まれたこの好循環により、いなべの魅力を創り・育てていき、まちづくりを行っていきます。

※いなべブランドの認定

いなべブランドは、全ての分野の行政サービスにおいて、市として誇れる事業、先駆的な事業、全国等で表彰を受けたもの等をピックアップし、その行政サービスを市の各担当部の代表が審査し、客観的な視点において、基準を満たした行政サービスをいなべブランドとしています。



確立イメージ図



品質の向上

いなべブランドは、市職員の業務改善への挑戦により生まれた、高水準で市として誇れる行政サービスです。いなべブランドの認定を目指すことで、品質の高い行政サービスを創造しています。

満足度の向上

いなべブランドを創造し、行政サービスの質を充実させていくことで、市民満足度の向上を図ります。

イメージ向上

いなべブランドを本冊子等にまとめ、情報発信を行い、いなべの強みを効率的、効果的に伝えることで、イメージ向上を図ります。

住んでいーな！来ていーな！
活力創生のまち いなべ

いなべブランドの推進

地域ニーズにあった高水準な行政サービスを創造していくためにいなべブランドでは、次の2つの視点を取り入れています。

グリーンクリエイティブいなべ

グリーンクリエイティブいなべとは、いなべの豊かな自然、里山、農産物などの地域資源をグリーンと定義し、都会的なもの（選ばれるもの）に磨き上げ、人々を魅了する創造活動です。

このグリーンクリエイティブいなべの理念を基に業務改善を行い、いなべブランドを創造していくことで、いなべ市の特色を活かしたまちづくりを行っていきます。

GCI

Green Creative Inabe

SDGs

SDGsとは、平成27年9月の国連サミットにおいて、環境・経済・社会の3側面の調和から持続可能な開発を進めるため、令和12年をゴールとして、達成すべき17の開発目標などを定めたものです。

少子高齢化や人口減少の進行、大規模災害の発生などの大きく変革するこの時代の中で、いなべ市では、SDGsを推進した持続可能なまちづくりを進めています。

SDGsの視点を取り入れた業務改善を行い、いなべブランドを創造していくことで、持続可能なまちづくりを行っていきます。



THIS IS INABE BRAND

既存ブランド
事業



ママ元気 赤ちゃんすくすく

母子保健事業

事業開始年月日 平成15年12月1日

こんなところが
“いなべブランド”

赤ちゃんの成長や健康はもちろんのこと、ママへの質問票（EPDS※）でママの子育てをサポート。下記の表にもあるようにほぼ100%のママと赤ちゃんと保健師が関わっており、県内でも上位の訪問率となっています。

また、保健師を市の職員として配置し、充実した子育てのサポート体制となっています。

※エンジバラ産後うつ病自己調査票

事業概要

近年、核家族の増加等により、気軽に子育ての不安や悩みを相談できる方が身近にいないなど、子育てに不安を抱えるお母さんは増えています。いなべ市では、出産後の子育て不安の解消を図るため、健康や病気に関する専門家である保健師が、乳児（おおむね生後2か月から4か月）のいる全ての家庭を訪問する「こんにちは赤ちゃん訪問事業」を行っています。

訪問した際は、予防接種、母子保健事業（検診・育児相談等）、子育て支援センター、保育園、赤ちゃんの成長に応じた情報を提供します。またご家庭にあった子育ての方法をママと一緒に考えます。

○何故、赤ちゃん訪問！？

子育ては、初めてでも、2人目でも不安がいっぱいで気づかないうちに産後うつ状態に陥っているこ

とがあります。だからこそ、子育て中のお宅へ訪問し、悩みを積極的にお聞きし、専門的なアドバイスを行い、不安解消のお手伝いをします。

育児不安の強いママや支援の必要なお子様に対しては、訪問で接した保健師が市の各担当課や関係機関と連携し、訪問や電話相談等、成長に応じて継続的に支援しています。

■こんにちは赤ちゃん訪問の状況

	対象者	訪問実施	訪問率
H27	385件	385件	100%
H28	385件	385件	100%
H29	306件	301件	98.4%
H30	314件	305件	97.1%
RI	308件	290件	94.2%



赤ちゃんの発達確認



赤ちゃんの身長計測



母子健康手帳の確認

評価・
マスコミ
紹介等

・こんにちは赤ちゃん訪問の訪問率 県内上位

お問合せ

健康こども部 健康推進課
電話 0594-86-7824
FAX 0594-86-7864
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



どこでも子育て支援!

地域子育て支援事業、ブックスタート事業 他2事業

事業開始年月日 平成17年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

いなべ市の全ての子育て家庭が安心して生活できるよう、出産の段階から途切れない子育て支援サービスを提供しています。

このサービスを提供する上で、出前ひろばや子育て応援団など、地域全体で子育てを支援する環境づくりを行うことで、子育て家庭の孤立の防止や見守りにつながっています。

事業概要

近年、核家族化の増加や少子化の影響から子育てに不安を抱える家庭は増えています。いなべ市では、出産の段階から途切れない子育て支援として次の事業を行っています。

○出前ひろば、子育て応援団

子育て支援専用軽自動車「おでかけGo(号)」が地域の公民館・公園等に出向き、その場所をお借りして、出会いと遊びの場を提供しています。

出前ひろばでは、子育て応援団のボランティアや民生委員の方にも協力していただき、子育て相談、保護者の仲間づくり等を支援しています。

○いなべ子育てガイドブック

子育てに関する情報をまとめた冊子です。母子手帳と一緒にお渡ししています。

○ブックスタート

生後6か月の全てのお子さんを対象に、子育て支援センターに親子で来ていただき、子育て応援団のボランティアや民生委員の方とのふれあいの中で、

絵本を開く時間の楽しさを感じてもらいます。

○1歳おめでとう訪問

満1歳の誕生月に子育て支援センター職員が自宅を訪問し、お子さんの足型をとってプレゼントしています。お子さんの様子を伺い、子育てに関する相談や情報提供を行っています。

○ブック Re スタート

満2歳の誕生日を迎えるお子さんに、再度、絵本のプレゼント・読み聞かせを行います。親子で一緒に絵本に親しんでもらうため、読み聞かせのアドバイスやおすすめ絵本の紹介も行います。

○子育てランド

2歳児以上の未就園児を対象に保育園を開放し、子ども同士、保護者同士の交流を図り、子どもたちがスムーズに集団生活に馴染めるようにしています。



おでかけGo(号)



いなべ子育てガイドブック



ブックスタート



出前ひろば

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

1 健康こども部 児童福祉課
電話 0594-86-7821
2 健康こども部 保育課
電話 0594-86-7823
3 健康こども部 健康推進課
電話 0594-86-7824
(共通)住所 いなべ市北勢町阿下喜31
FAX 0594-86-7864



生きる力をつなげる チャイルドサポート

発達支援事業

事業開始年月日 平成21年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

発達に支援を必要とする子どもの健全な発達を図るため、母子保健、保育、教育、障がい福祉の各部門が連携し、出生から就労まで途切れない支援を行います。
令和元年5月には、新庁舎横に保健センターを整備し、市の発達支援拠点としての機能の充実を図りました。子どもの成長や発達に悩みを抱える保護者の方に寄り添いながら育ちを支える体制を整えています。

事業概要

特別な支援や配慮を必要とする子どもを含めた全ての子どもの健やかな成長のために、次の視点により事業を行っています。

〇見つける

母子保健・保育園・子育て支援センターが連携し、支援が必要な子どもに、より早く適切な支援を行っています。

〇見守る

乳幼児健康診査、4歳児までが対象の発達相談や5歳児が対象の就学相談の結果、支援が必要と思われる子どもには保育園、市の保健師、発達支援アドバイザー等が連携して、子どもにとって必要な対応や支援を考えます。

また3～5歳児が在籍する市内の全保育園では、三重県が開発した統一した手順により子どもの発達状況を確認し、保育園での適切な支援につなげます。

〇支援する

丁寧な支援が必要と思われる子どもには、発達支援課が個別療育や通級型の小集団療育を実施し、子どもの成功体験を積みせるとともに保育園や家庭での適切な対応や支援について一緒に考えます。

また、在園児の中で支援が必要と思われる子どもには、保育園が「個別の指導計画」を作成し、その子に応じた支援を行います。

〇つなげる

保育園から小学校、小学校から中学校、中学校か

ら高校あるいは特別支援学校へと必要な支援情報を引き継ぎます。

また5歳児対象の就学前訪問（就学アセスメント）、小1訪問、小6訪問、中1訪問等の事業を通して保育園・学校と発達支援課が協働して子どもの状態を見守り、適切な支援につなげます。

支援を要する子どもには、その特性や保護者の願いを関係機関に引継ぎ、より良い支援が受けられるように相談支援ファイル（ハピネスファイル）を作成し活用します。

〇高める

保育園と小中学校での特別支援の中心になるコーディネーターが合同研修等を行い、スキルアップを図るとともに保育園、学校間の連携を深めています。

また保護者、保育士、教員等の子どもの支援者を援助するために、発達支援課に専門職員（公認心理師・言語聴覚士・作業療法士等）を配置し、保護者をサポートするとともに、保育園や小中学校における各種巡回相談・研修・指導を充実させています。



相談支援ファイル
「ハピネスファイル」



通級型小集団療育教室

評価・
マスコミ
紹介等

・文部科学省「切れ目ない支援体制整備充実事業」を実施。（H30、R元、2年度）

お問合せ

健康子ども部 発達支援課

電話 0594-86-7825

FAX 0594-86-7864

住所 いなべ市北勢町阿下喜31



検診、発見、元気なからだ

健康推進事業

事業開始年月日 平成15年12月1日

こんなところが
“いなべブランド”

市民の皆さんがスムーズにがん検診を受診できるよう独自の取り組みを行っています。初めて受診される方が気軽に受けに来られる環境づくりや忘れずに毎年継続して受診してもらえ工夫など受診者のご意見を聞き、受診環境の改善を日々行っています。

その結果、どの健診においても県内上位の受診率を誇っており、市民の健康増進に繋げています。

事 業 概 要

生活習慣の変化等から、全国的にがんの罹患者、死亡者が増えています。がんの早期発見を図り、いつまでも健康でいられるよう、いなべ市では、6種類のがん検診（胃、肺、大腸、前立腺、乳、子宮）を実施しており、検診車ドック、病院ドック、通常のがん検診の3つの検診環境を整えています。

多種の受診環境を整えると共に受診者の声を聞き、次の改善、工夫を行っています。

○待ち時間の解消

検診場所が混雑しないよう、毎年3月初旬に受診希望申込書を各個人に郵送し、受信希望者数の把握を行い、日程・時間を割り振っています。

○毎年受けてもらう仕組み

本年度に受診した人は、翌年度新たに申請をしな

くても自動的に本年度と同じ検診を受けられるようになっています。（変更のある場合は申請が必要）

○1日で終わらせたい

肺がん検診以外のがん検診は全て同日で受診できるようになっています。

○特定健診やがん検診を一度に受けられる環境

国民健康保険加入者を対象に受診者の負担を減らすため、がん検診と特定健康診査を同時に受診できる人間ドック（総合検診）を実施しています。

○急な日程変更

受診者の都合により日程を変更することができます。

■令和元年度地域保健・健康増進事業報告

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
いなべ市	25.4%	17.8%	21.0%	27.2%	31.3%
県	12.3%	8.0%	9.2%	20.4%	18.0%
国	8.4%	7.4%	8.4%	16.3%	17.4%



検診に訪れる市民の皆さん



天候に左右されることなく、バスで受診できます

評価・
マスコミ
紹介等

・がん検診受診率 県内上位

お問合せ

健康こども部 健康推進課

電話 0594-86-7824

FAX 0594-86-7864

住所 いなべ市北勢町阿下喜31



健診受けて湯かった

特定健康診査事業

事業開始年月日 平成25年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

国民健康保険加入者で検診受診された方へ、インセンティブとしていなべ市の健康増進施設である阿下喜温泉利用券「お得一ポン」を配布することで、健康増進に積極的に取り組む方を応援しています。

このいなべ市独自の取り組みなどにより、特定健診受診率は、県内でもトップクラスです。

事 業 概 要

特定検診は、日本人の死亡原因の約6割を占める生活習慣病のリスクを早期発見するものです。健康であるための大事な検診ですが、国民健康保険加入者の検診受診率は全国的にも低く、どうしたら皆さんに検診を受けてもらえるか工夫を凝らしています。

○お得一ポンの配布

いなべ市では、国民健康保険加入者の方が更なる高い健康意識を持ち、受診していただけるよう、検診を受けた際に「お得一ポン」を配布しています。

・お得一ポン

阿下喜温泉入浴券2枚、トレーニング利用券1枚、ラフィーラ体操利用券1枚(1,700円相当分)

特定健診をきっかけにいなべ市の健康増進施設である阿下喜温泉の利用を促進することで、いなべ市の中で、健康増進のサイクルを構築しています。

令和元年度のお得一ポン利用者は、延べ3,400人です。

■平成31年受診率

	受診率
全国平均	37.7%
三重県平均	44.5%
いなべ市	54.0%



お得一ポン



岩風呂



トレーニングルーム

○高い受診率を活かして

お得一ポンの配布などにより、全国的にも高い受診率を占めるいなべ市ですが、更なる健康増進に向けて、特定保健指導教室「糖尿病を知る集い」を行っています。

特定保健指導教室とは、医療費分析において課題にあがっている糖尿病の対策として、健康推進課と連絡し、特定健診で糖尿病予備軍と判定された方に健康指導を行っています。

健康推進課が食事・運動の管理等を指導し、保険年金課はデータ分析等で保健指導をサポートしています。参加者は、楽しく学びながら生活改善に取り組み、成果をあげています。

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

市民部 保険年金課
電話 0594-86-7811
FAX 0594-86-7863
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



「からだ」も「地域」もゲンキに! ～元気リーダー大活躍～

介護予防推進事業

事業開始年月日 平成14年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

この元気づくりシステムに多くの方が参加し、健康でいられるように自治会の集会所等を中心に実施しています。また、この健康の輪を広げる仕組みとして、所定の回数を受講した「元気リーダー」が受講者から指導者になり、地域の中で元気づくりシステムを広げています。地域のマンパワーを活用した健康増進に繋げる仕組みは全国でも高く評価されています。

事 業 概 要

高齢化の進行等により増加する医療費や介護給付費への対策は、国、全国の自治体において、重要な課題の一つです。要支援状態になる前に健康増進、介護予防に積極的に取り組み、高い健康意識を持っていただけるように、いなべ市では元気づくりシステムを導入しています。

○元気づくりシステム

元気づくりシステムは、ストレッチ体操、ウォーキング、ボール運動等を取り入れた健康増進、介護予防体操です。介護予防体操は、運動器の機能向上を主な目的とした体操で「一般社団法人 元気クラブいなべ」のオリジナルです。コースは、次の3コースがあります。

・拠点コース（平成14年4月から実施）

市内の体育館等で1回2時間程度の運動を実施

・集会所コース（平成19年4月から実施）

指導員が地域の集会所で、運動を中心に1回90分間、週2回6ヶ月間実施103地域で実施（令和2年度末）

・元気リーダーコース（平成20年10月から実施）

集会所コースを修了した参加者のうち、30回以上受講した人が「元気リーダー」となります。集会所コース終了後も、引き続き集会所でストレッチ体操、ウォーキング等の指導者となり、活躍します。

住民自立型 84 地区・元気リーダー 900 人
（令和2年度末）



「幸せを呼ぶまち」いなべーみんなであげればまちがつながるー
オープニングセレモニーでの元気リーダーの体操
【阿下喜温泉あじさいの里体験ホール】



元気リーダーによる活動の様子【北勢町東町地区】

評価・
マスコミ
紹介等

住民参加や地域づくりの創出につながる点が高く評価され、このいなべ市で出来上がったシステムが全国で取り入れられています。
（福島県伊達市、広島県北広島町、熊本県南関町、三重県玉城町、栃木県市貝町、福島県大玉村）

お問合せ

1 福祉部 長寿福祉課
電話 0594-86-7819
FAX 0594-86-7865
2 健康こども部 健康推進課
電話 0594-86-7824
FAX 0594-86-7864
（共通）住所 いなべ市北勢町阿下喜31



住み慣れた地域で 安心した生活を

生活支援体制整備事業

事業開始年月日 平成29年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

高齢化が進む中、誰もが住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう、いなべ市では、自治会を基本単位として、福祉委員会の設置を推進しています。全国的には基本単位を小中学校区域で設定する自治体が多い中、市民にとって一番身近なエリアである自治会での設置を推進することで、地域内の繋がりを深めています。

事 業 概 要

高齢者世帯の増加等により、行政サービスだけでは要支援者の在宅生活を支えることが難しくなり、地域での互助や助け合いが必要となってきています。

いなべ市では、社会福祉法人いなべ市社会福祉協議会と連携し、福祉委員会の設置を進めています。

福祉委員会は、自治会を基本単位として、地域の人たちが自主的に運営し、地域課題を地域で話し合う場です。福祉委員会のメンバーは、自治会の役員、民生委員児童委員、主任児童委員、老人会役員、サロンの主催者、地域で福祉活動を担っている人などで構成され、福祉委員長が中心となって取り組みを進めています。

令和3年3月末時点で、60地区で福祉委員会が設置されており、高齢化のピークの入口になる令和7年に向けて、市内全地区での福祉委員会設置を目指します。

○福祉委員会ではどういったことをしているの？

- ・ 区内における課題の把握と情報の共有。支え合いマップ（地域で支援が必要な人とその人の見守りを行っている人の情報を住宅地図を使って委員会のメンバーが共有するもの）の作成による見える化
- ・ 区内の課題解決に向けた話し合い
- ・ 区内での見守りやサロン活動等への働きかけ
- ・ 区内内外の関係者やほかの福祉委員会等とのネットワークづくり等



東貝野福祉委員会



東一色福祉委員会



鍋坂区福祉委員会



古田自治会福祉委員会

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

福祉部 長寿福祉課
電話 0594-86-7819
FAX 0594-86-7865
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



レインボーフラッグが掲げられる社会に！

LGBT 啓発事業

事業開始年月日 令和2年7月1日

こんなところが
“いなべブランド”

年々、パートナーシップ宣言制度を導入する自治体が増えつつあるものの、まだまだ全国的にLGBT等への誤解や偏見は社会に根強くあり、不当な差別的取扱いにより生きづらさを抱えている当事者は少なくありません。

いなべ市は、この課題を速やかに解決するために三重県の自治体の中で、1番早くLGBT条例を制定しており、先進的な事例として県内外において、高く評価されています。

事業概要

同性愛や性同一性障害などの性的マイノリティも含む全ての人が平等で差別されることのない社会を実現していく必要があります。

いなべ市では、性的指向や性自認などに関わらず、自らの意志と責任により、より多様な生き方が選択できるように、次の制度の整備及び啓発に取り組んでいます。

○条例の制定

性の多様性を認め合う社会を推進するために、いなべ市では、いなべ市性の多様性を認め合う社会を実現するための条例（令和2年6月26日付）を制定し、基本理念を定めるとともにカミングアウトの強制やアウティングの禁止などの内容を盛り込み、この条例を事業の柱とし、LGBT推進事業に取り組んでいます。

○パートナーシップ宣誓制度の導入

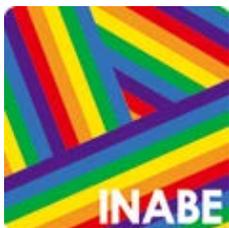
現在、日本の法制度では同性婚は認められていま

せん。いなべ市では、いなべ市パートナーシップの宣誓の取扱いに関する規則（令和2年6月30日付）を制定し、同性カップルが、相互に協力し合うパートナーとして共同生活を行っていくこと等を市に宣誓することで、市がパートナーとして登録するパートナーシップ宣誓制度を導入しています。

この制度の導入により、社会においていきいきと活躍されることを期待するものです。

○LGBT理解促進の啓発活動

多様な生き方が選択できる地域・社会を構築するためには、LGBTに対して正しく理解することが重要です。いなべ市では、地域おこし協力隊の制度を活用することで、専門的な人材を確保し、市民向けにパネル展示や、各種団体や学生・児童を対象とした講演会などを行い、LGBT理解促進のための啓発活動を行っています。



いなべ市レインボーフラッグ



講演会の様子



にぎわいの森でのパネル展示

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

福祉部 人権福祉課
電話 0594-86-7815
FAX 0594-86-7865
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



美しい水環境の創出

下水道施設整備事業、農業集落排水施設整備事業 他 | 事業

事業開始年月日 いなべ市公共下水道事業 平成7年4月1日
農業集落排水事業 平成3年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

汚水処理人口普及率は、県内の市で1位、三重県の平均86%を大きく上回る99.8%と非常に高い数値を誇ります。高い普及率が示すとおり、令和元年に行われたまちづくり市民満足度調査（一般市民調査）において、まちづくり満足度の項目で、下水道の整備が一番高い結果となっています。快適で衛生的な生活環境が整備され、河川等の自然環境保全や住みよいまちづくりに貢献しています。

事業概要

いなべ市は、公共下水道区域、農業集落排水区域及びそれ以外の区域に分けて、生活排水処理を行っています。

公共下水道区域は、員弁町、大安町、北勢町（阿下喜地区、治田地区、山郷地区の一部）、藤原町（東藤原地区、西藤原地区、白瀬地区、中里地区の一部）を桑名市、四日市市等の北勢7市町が運営している北勢沿岸流域下水道として統合汚水処理を行っています。

農業集落排水区域は、北勢町内の十社地区・山郷地区の一部と藤原町内の員弁川左岸区域（立田地区、中里地区の一部）に11箇所の処理施設があり、汚水処理を行っています。

それ以外の区域は、合併浄化槽による汚染処理を行っています。

この結果、汚水処理人口普及率は、他自治体と比

較しても非常に高く、快適で衛生的な生活環境が整備されています。

○高普及率 自然豊かなまちづくりに貢献

この汚水処理環境を整えることにより、河川等の自然環境の保全に繋がっており、ホテルの生息が非常に多く確認できるようになっています。

この自然環境への寄与から、令和元年に行われたまちづくり市民満足度調査（一般市民調査）において、住みやすいと感じる理由の第1位に「自然に恵まれているから」の項目があっており、住みよいまちづくりに貢献しています。

汚水処理人口普及率 (%)



三重県：みえの下水道 2020-2021 より

評価・
マスコミ
紹介等

・汚水処理人口普及率 県内の市で1位

お問合せ

水道部 下水道課
電話 0594-72-3515
FAX 0594-72-3748
住所 いなべ市北勢町阿下喜2633



地域のHERO消防団

消防団事業

事業開始年月日 平成22年7月25日

こんなところが
“いなべブランド”

消防団は、地域にとって欠かせない存在であり、いなべ市では、地元企業、地域、行政が協力し、人材発掘に努めています。その結果、消防団員の充足率は、100%であり、全国平均 89.8%に対して非常に高い数値となっています。また地域と連携し防災訓練等において、防災啓発を行っています。

これらの取り組みを進めることで、市民の防災意識の醸成に繋げ、安心・安全で住み良いまちづくりを行っています。

事業概要

近年、地震、台風、集中豪雨など多くの災害が発生する中で、地域を巻き込んだ防災対策を講じる必要があります。安心・安全に暮らせるよう、消防団を設置し、地域防災力の向上を図っています。

消防団は、消防署と異なり、地域住民が他に仕事を持ちながら「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神に基づき、地域ごとに設置されており、地域住民の生命と財産を守るために活動をしています。

地震、台風などの自然災害のみならず、火災、山岳救助、行方不明者の捜索などの人的災害にも出動し、市民の安心と安全を守るために昼夜問わず活動しています。いつ起きるかわからない災害に備え日々訓練を行い、地域の消防力や防災力を向上させるとともに、市民への防災訓練や啓発を実施しています。

いなべ市としては、この消防団の活動が円滑に行えるように、次の取り組みを行っています。

〇常備消防との連携

防災機能の核である消防本部を充実させ、消防団と連携を図ることで、相乗的に防災力の向上に繋がっています。

〇地域防災環境の整備

活動の拠点である消防団車庫や消防車輛、消防機器等の修繕、管理を担い、いつでも万全な体制で出動できるようサポートしています。

〇消防団員の確保

消防団員のサラリーマン化が進み、ほとんどの団員は企業に勤めながら、活動をしています。全国的に適正な消防団員の確保が難しくなっており、いなべ市では消防団員の確保を図るために、地元企業への協力要請等を行っています。



全国操法大会で健闘するいなべ市消防団

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

総務部 防災課
電話 0594-86-7746
FAX 0594-86-7859
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



納税意識の高いまち いなべ

市税収納事業

事業開始年月日 平成16年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

多様な納税方法、個別相談等により、市民としっかり向き合い、納税しやすい環境づくりを行っています。この結果、毎年県内の市（14市）の中で常に上位の収納率を占めています。

また、小学校に出向き行う租税教室では、納税による行政運営の仕組み等を伝え、納税意識の醸成を図っています。

事 業 概 要

全国で広がるキャッシュレス化等、多様なニーズに対応した税金の納税体制を構築していく必要があります。

市が徴収する税金は、市民税、市たばこ税、鉱産税、軽自動車税、固定資産税です。すべての税金において、納税率の向上を図り、充実した行政サービスの提供につなげるため、次の取り組みを行っています。

○多様な納入方法

納税方法は、口座振替納税、コンビニ納税、スマホ決済を準備しており、県下の納税環境を整えています。

○相談体制

納税方法、税金の算定方法など気軽に窓口で聞ける体制が整っています。

また事情により納められない人には、分割納付等、親切・丁寧な納税相談を行っています。

○小学校で税金の授業

毎年、市内の小学校に出向いて租税教室を実施し

ています。税金の使われ方等の税に対する理解を深め、将来の納税意識の醸成を図ります。

○法律に基づいた適切な対応

納税されない人に対しては、債権（売掛金、預貯金、給与等）や不動産（土地や建物）、無体財産（電話加入権や出資金等）等、法律に基づいた厳格な差押えを実施します。



租税教室の様子

■過去5年間の収納率の推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
いなべ市	97.8%	97.8%	97.6%	97.7%	98.0%

評価・
マスコミ
紹介等

・市税収納率 県内の市で上位

お問合せ

総務部 納税課
電話 0594-86-7793
FAX 0594-86-7861
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



地域と共に育つ学校

コミュニティスクール推進事業

事業開始年月日 石榑小学校 平成18年4月1日 藤原小・中学校 平成31年4月1日
員弁中学校・阿下喜小学校・治田小学校・員弁東小学校 令和3年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

地域の子どもや学校を取り巻く問題を地域の課題として捉え、共に解決するため、多くの地域住民が学校運営、学校支援に携わり、交流しています。

また、子どもや学校の課題にとどまらず、地域課題を解決するための協働の場として学校づくり、人づくり、地域づくりに取り組み、地域のコミュニティ強化も図っています。

事業概要

地域の子どもの見守り、学びのサポートは、学校だけではなく、地域の繋がりによって維持されてきました。近年、核家族の増加等により、地域のつながりは希薄化しつつあります。

地域コミュニティの維持から子どもの教育活動の充実を図るため、石榑小学校と藤原小・中学校をモデルとし、また、新たに員弁中学校、阿下喜小学校、治田小学校、員弁東小学校の4校を加えてコミュニティスクール推進事業を行っています。

コミュニティスクール推進事業では、各校の学校運営協議会が調査研究や活動計画をつくり、地域の特色を活かした地域教育を行っています。

石榑小学校の取り組み

○地域が学校を支援

地域住民が先生となり、総合学習支援やわくわくスクールを実施しています。また、地域住民が参加し校舎校地の清掃、花木の管理を行っています。

○地域が児童の安全を守る

見守り隊（地域住民）による登下校の同行、出迎えを行っています。

○地域を誇りに思うイベントを学校と共同開催

石榑の里祭まつり（毎年11月に実施）、竜ヶ岳登

山を地域と学校で共同実施しています。

藤原小中学校の取り組み

○教育活動・体験活動を応援

生活科、総合学習支援、読み聞かせ、家庭科など様々な授業の中で地域住民が関わっています。

○安心して過ごせる学校や地域を目指して

地域住民と生徒が共同で行う「あいさつ運動」や登下校時における地域での見守り活動を実施しています。

○藤原の人、自然、文化が好きになり、誇りに思う子を育てる

藤原学「地域を知ろう・広めよう!」、勤労体験、平和学習、地域の伝統的な祭り、行事を学校と地域が共同開催しています。



登下校「見守り隊」（石榑小学校）



藤原学「地域を知ろう!」（藤原小学校）

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-86-7844
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



ICT で学びをサポート

学校 ICT 活用事業

事業開始年月日 平成28年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

タブレット端末の小中学校全生徒分の配備による機器の充実、ICT 機器活用支援員による専門家の配置等、県内において、いち早く ICT 教育に取り組んでいます。

IT、ICT 技術の格差は正だけではなく、主体性や基礎学力向上等の生徒の力を伸ばすため、教員一人一人が研究、授業内容の改善を行っています。

事業概要

近年、IT、ICT 技術が進む中、地域や学校、家庭環境による IT 格差への対応が必要となっています。格差を生むことなく、誰もが IT、ICT 技術を扱えるよう、小学校の段階から ICT の授業を行っています。

小中学校全クラスに電子黒板を整備すると共に 1人1台タブレット端末を配備しています。また授業を円滑に行えるように ICT 機器活用支援員が定期的に学校に訪問し、機器のメンテナンスのほか、授業に入り機器活用等の支援を行っています。

○自分の殻を破り、積極的に自己表現をする子どもたち

この ICT 教育の環境を整備することで、子どもの表現の幅が広がり、思考の深化や学習意欲に良い影響を与えています。

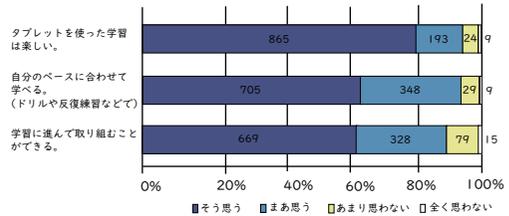
挙手をして発表する時には、緊張して言葉が出ない子どもも、タブレット端末や電子黒板に書き込んでから発表する時は、内容を目で確認しながら話せるため、抵抗なく自分の考えを述べられるようになりました。自分の意見をみんなに共有し

てもらえる喜びが、子どもの学びへの意欲を高めています。

○タブレット端末を活用した反復学習で基礎学力の定着

基礎学力の定着にタブレット端末を活用しています。基礎知識の習得は、子どもが集中して取り組めるようクイズやパズル形式のアプリケーションを利用しています。また漢字や算数等の反復学習は、過去の単元や前の学年の学習内容に戻って、取り組むことができ、生徒が自分のつまずきに応じた学習に取り組めるようになっていきます。

■令和2年度児童タブレットアンケート結果



タブレットで伝え合い



電子黒板とタブレットで学び合い



タブレットで個別学習



ICT 機器活用支援員がサポート

評価・
マスコミ
紹介等

- ・平成30年度文部科学大臣優秀教職員表彰受賞 (H31年1月15日)
- ・教育家庭新聞にipad整備の記事掲載 (H31年3月4日)
- ・ベネッセ教育総合研究所「VIEW21」にいなべ市ICT教育掲載 (R1年6月25日)

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-86-7844
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



9年間の学びと育ちを見据えた教育を

小中一貫教育推進事業

事業開始年月日 平成29年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

小中一貫教育では、学びと育ちに連続性を持たせることで、学習意欲の向上を図るだけでなく、地域への愛着を持ってもらえるよう教育を行っています。

校区ごとに地域の特色を活かした教育方針を立て、実施していくことで、自己有用感を育み、自己実現を図るとともに、地域社会の一員としての自覚を養い、ふるさと“いなべ”を愛する心を育て、働くことや職業についての認識を深め、確かな社会性を身に付け、志を育てています。

事業概要

成長が著しい小中学校の9年間において、生徒の能力を最大限に伸ばすため、生徒一人一人の資質、能力等を各機関が共有し、将来像を統一する必要があります。

いなべ市では、中学校卒業時における目指す子ども像を明確にし、小中学校が一致した方向性のもとで、地域とともに特色ある教育活動を展開するため、小中一貫教育を導入しています。

いなべ市の学校教育目標である「いなべの明日を担う心豊かでたくましい子どもの育成」を実現するために、中学校区（合併前の旧4町）ごとに校区の特色を活かした統一教育目標を掲げ、校区内の小中学校が、一貫性・系統性のある教育活動を展開しています。

北勢、員弁、大安校区では、小中学校の施設が分離する中で一貫教育を行っており、藤原校区では、小中学校の施設が一体となり、実施しています。

○小中一貫教育グランドデザインとカリキュラムを活用した教育

中学校区ごとに特色ある小中一貫教育を実施するため、中学校区ごとに、中学校区小中一貫教育グランドデザインを作成し、推進の方向性を示しています。

また教科及び領域を系統的に捉えた教科別カリキュラムや教科領域別カリキュラム及び全教育活動を通して実施する未来いなべ科カリキュラムや人権教育カリキュラムを子どもの発達段階を考慮し、義務教育9年間のうち前期（4年間）、中期（3年間）、後期（2年間）区分に分け策定をしています。教育方針において、共通認識の中で全ての方が教育に携われる体制づくりを行っています。



山郷小学校 全校集会写真



員弁西小学校 ドリームマップ作成



大安中学校の様子



藤原小中学校 合同避難訓練

評価・
マスコミ
紹介等

【行政視察受入実績】
加古川市、桑名市（R2年度）

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-86-7844
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



ふるさとの川にすむ ネコギギを守ろう

国重要文化財等保存活用促進事業（ネコギギ）

事業開始年月日 平成18年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

国指定天然記念物ネコギギと自然豊かな河川の再生に向けて、地域住民、専門家、行政が合意形成を図りながら、次の世代につながる川づくりと地域づくりの取り組みを継続的に進めています。

市内河川で保護したネコギギを家系管理しながら水族館等で繁殖し、飼育下で増殖したネコギギを自然の川へ放流しています。

事 業 概 要

SDGsの視点を取り入れたまちづくりが国際機関において推奨される中で、自然環境の保護の視点に立ったまちづくりを進めることは必要不可欠です。

ネコギギ（ナマズ目ギギ科）は、国指定天然記念物であり、三重県、岐阜県、愛知県の伊勢湾周辺域河川にのみ分布する日本固有の純淡水魚で、清流の象徴といわれています。平成2年以降の調査で具弁川水系のネコギギの生息は危機的な状況になっていることが分かり、生物多様性の保全の一環で、保護、増殖を行っています。

ネコギギ保護増殖の取り組みでは、生息状況調査や生息環境調査及び改善、飼育増殖、試験放流などを行っています。

その結果、人工飼育で得られるネコギギの延べ繁殖

個体数は、年々増加しており、一定の成果があがってきています。

○地域に広がる保護活動

地域を学ぶ授業の一環として、ネコギギが生息する地域の小学校の総合学習では、ネコギギの授業を行っています。またPTAが主体となりネコギギの勉強会や川に生息する魚類の親子観察会等を開催しており、地域を知り、いなべへの愛着醸成を図っています。

■人工飼育で得られるネコギギの延べ繁殖個体数

H30	R1	R2
1,690尾	2,200尾	2,270尾



川で自然繁殖したネコギギの稚魚



ネコギギ飼育作業の様子



十社小学校 ふるさとの川学習

評価・
マスコミ
紹介等

- ・ネコギギサミットin三重(R元年8月31日)
- ・読売新聞(三重)(R元年5月4日)
- ・朝日新聞(三重)(H30年4月20日)
- ・毎日新聞(三重)(H30年3月30日)
- ・読売新聞(三重北勢)(H30年3月29日)
- ・中日新聞(三重)(H30年3月24日)
- ・中日新聞(三重北勢)(R2年11月20日)

お問合せ

教育委員会事務局 生涯学習課
電話 0594-86-7846
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



プールで育む子どもの元気 ～安全と笑顔～

海洋センター事業

事業開始年月日 平成23年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

幼少期における水難事故対策等による水辺での学習は必要不可欠です。中山間地域で海に面していないいなべ市でも水に親しんでいただけるように、アクアリズム運動教室、水辺の安全教室を開催しています。

中山間地域でも身近に水に触れ、体力の向上や正しい知識を得られる環境を整えているこの取り組みが評価され、B & G財団の海洋センターの管理運営全般評価で特Aを獲得しています。

事 業 概 要

海やプールなどにおける水難事故が多い中で、幼少期の段階から水辺での対処方法を学ぶ機会をつくり、対策を講じていく必要があります。

いなべ市では、水難事故対策と児童の体力向上等を目的に研修、訓練を受けてインストラクターとなった市職員が海洋センター事業として、次の教室を開いています。

○アクアリズム運動教室

子どもたちの体力が低下傾向にある中、保育園児（4歳児、5歳児）を対象に開催しています。プールでの遊びやリズム運動等を通して、体力の向上を図ります。いろいろな動作を習得する能力は、就学前の幼児期にピークを迎え、その時までには運動や遊びなどを体験することは、以後の成長、発達に大きな影響をもたらします。

水に親しみ楽しみながら、多くの体験をすることで、集団の中で、協調性や思いやり、順番を守る等の規律性も育みます。

○水辺の安全教室

体力の向上、水の事故ゼロにするため、市職員（インストラクター）が学校に出向き、実施しています。

“水に近づかない”ことを教えるのではなく、水の安全について正しい知識を学んでいただきます。水辺での活動を楽しいものにするため、いざという時に誰にでもできる対応を伝え、自分の命は自分で守るという自助意識の向上を図っています。

指導内容は、着衣泳、ペットボトル等身近なものでの浮遊体験、ライフジャケット浮遊体験等を行います。



動物ものまね体操で準備体操



アクアスタディ（ビート板）



宝物拾い



背浮きの練習



水辺の安全紙芝居



ペットボトル浮遊体験



落水体験（落ちたらすぐ背浮きの練習）

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

教育委員会事務局 生涯学習課
電話 0594-86-7846
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



地域で見守る子どもの成長

放課後子ども教室事業

事業開始年月日 平成23年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

地域の方が自ら講師、サポーターとなり、様々な学習、スポーツ、文化活動などの体験会を実施することで、子ども同士だけでなく、大人など様々な地域住民と触れ合う機会が創出され、社会性、協調性及び自立性などが育まれています。

この地域のマンパワーを活用し、地域で子どもの成長を見守る取り組みは、全国的に高く評価されており、放課後子ども教室ほくせいは、「地域学校協働活動」推進にかかる文部科学大臣の表彰も受けています。

事業概要

ゲーム遊びなどの普及により集団遊びや仲間との活動経験が乏しい子どもが増加しています。また、地域社会のつながりが希薄になりつつあり、青少年を取り巻く環境の悪化が懸念されています。

この中で、いなべ市では、子どもの社会性、協調性及び自立性の成長を促し、地域コミュニティ強化による地域内教育の促進を図るため、いなべこども活動支援センター、放課後子ども教室ほくせい、員弁西放課後子ども教室の3つの団体に放課後子ども教室事業を委託しています。この事業は、各地域の人々が講師やサポーターとなり、地域資源を活かした様々な体験教室を開催するものです。

子どもたちは、様々なメニューを体験するとともに地域の人たちとの交流を通じて約束事、礼儀作法や社旗のルールを守ることの大切さを学びます。また、これらを通じて、意欲的で自己肯定感の持てる子どもを育成することを目標としています。

学校などの教育機関と連携しながら、休日や夏休みなどの長期休暇に合わせて開かれる短期のオープンスクールと1年を通じて1つのテーマにじっくり取り組むレギュラスクールを実施しています。

令和元年度利用者数（延べ人数）

	レギュラースクール	オープンスクール	合計
いなべこども活動支援センター	2,099人	981人	3,080人
放課後子ども教室ほくせい	3,404人	3,038人	6,442人
いなべ市立員弁西小学校西つ子夢くらぶ	1,016人		1,016人



なんじゃもんじゃ自然を味わおう



みんなでこと・コト

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

教育委員会事務局 生涯学習課
電話 0594-86-7846
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



全国初! 楽器を寄附するふるさと納税

楽器寄附受入事業

事業開始年月日 平成30年10月10日

こんなところが
“いなべブランド”

返礼品で注目されるふるさと納税に対して、そもそも寄附とは何かを問いかけ、全国初の事例。楽器不足で困る中学校、高校・教育団体と眠ったまま使われていない楽器を持つ人たちを、ふるさと納税が結びつけます。

大切にしてきたモノに思いを込める寄附文化の醸成と感謝の気持ちや楽器を大切にする心の教育。そして、新たに生まれるつながりを生み出していきます。令和3年3月末現在、84の楽器が市内中学校・高校・教育団体に届けられました。

事業概要

楽器寄附ふるさと納税は、生まれ育ったまちや応援したいまちに寄附をするというふるさと納税の制度を活かし、市立中学校吹奏楽部の慢性的な楽器不足の解消を目的とした取り組みです。

この取り組みでは、全国に眠っている使われなくなった楽器を寄附いただき、楽器が不足しているいなべ市の中学校や高校へ届けます。寄附を希望する人が、市の専用サイトから申し込むと、市と連携する株式会社マーケットエンタープライズが楽器の査定を行い、査定額に納得していただいた場合、寄附が成立します。楽器は市内の学校へ届けられ、寄附者は査定額に応じて、税金控除が受けられます。

一般的なふるさと納税と違って、返礼品はありません。子ども達からお礼の手紙をお送りするとともに、寄附楽器を使用したコンサートへの招待を行っています。また「感謝の声」として専用サイトでも画像を添えて紹介しています。

また、この制度に共感いただいた自治体からたくさんのお問合せがあったため、平成31年4月から全国的な展開が始まりました。令和3年3月末現在で、北海道から九州まで、全国で16市町が参画されています。

「楽器が足りない」という、市内の学校の困りごとを解決するだけでなく、自分や家族が大事にして

きた楽器を、想いととも次世代につなげるという新しい寄附文化が醸成されつつあります。



楽器寄附ふるさと納税専用 Web サイト



寄附された楽器と学校の生徒たち

評価・
マスコミ
紹介等

- ・令和2年度ふるさとづくり大賞 地方自治体表彰受賞 (R3年1月28日)
- ・さくらインターネット さくマガ掲載 (R2年9月2日)
- ・KBS京都ラジオ「笑福亭見瓶ほっかほっかラジオ」 (R2年9月10日)
- ・中日新聞 北勢版 (R3年2月15日)
- ・読売新聞 ジュニアプレス (R3年3月5日)

お問合せ

1 農林商工部 商工観光課
電話 0594-86-7833
FAX 0594-86-7869
2 教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-86-7844
FAX 0594-86-7871
住所(共通)いなべ市北勢町阿下喜31



世界のプロサイクリストが 集うまち いなべ

ツアー・オブ・ジャパン開催事業

事業開始年月日 平成27年5月19日

こんなところが
“いなべブランド”

国内最高峰のステージ制自転車ロードレース、ツアー・オブ・ジャパン (TOJ) いなべステージを開催するにあたり、市内企業、ボランティアなど様々な団体が連携し、実施することで、官民一体となって大会を運営しています。

大会当日は、市内の小学校や保育園児をはじめ、地域住民や市外からも多くの観戦者（令和元年度は、観客数 20,000 人を記録）を迎えることができ、地域の活性化、スポーツ振興に繋がっています。

事業概要

いなべ市では、出産や子育ての中心である 20代、30代の若年層の都市部等への流出が進み、今後ますます人口が減少すると予測されます。

このことから自然豊かないなべ市の特色を活かしたスポーツ振興、観光による地域活性化を目的にいなべ市に訪れるサイクリストや自転車を利用する市民へのサービス提供（サイクルラック、サインなど）、情報発信等を行い魅力あるまちづくりから定住促進を図っています。

その取り組みの中で、平成27年から TOJ いなべステージを開催しています。

現在、日本国内には9つの UCI（国際自転車競技連合）公認のロードレースがあります。この中でも TOJ は、8日間8ステージという最大の大会規模を誇り、全体を通じた観客数が 35 万人を超えるイベントです。

TOJ いなべステージは、いなべ市の自然豊かで起伏に富んだ道路環境を利用したコースを設定しています。阿下喜温泉前をパレード走行しながら、周

回コース（1周 14.8 km、8 周）へと進み、最大勾配 17% の激坂を含む山岳ポイントやテクニカルな下り、ワインディングロード等序盤から難所が続き、フィニッシュ前 1 km 付近から通称「イナベルグ」と呼ばれる道幅の狭い急坂区間もあり、展開の読めない難コースとして知られています。

国際大会の開催を契機に、いなべ市を訪れるサイクリストも増加し、「自転車のまち いなべ」としてのブランドづくりの大きな役割を果たしています。

大会の開催前には、地域の小学校で交通安全教室（ウィーラースクール）を実施し、「自転車での交通ルールの遵守」について指導する等、地域貢献の一端を担っています。

また、今秋開催の三重とこわか国体では、自転車ロード・レース競技を開催することで、更なる「自転車の聖地」としての魅力づくりを行います。



レースの様子



急坂を上る選手たち



ウィーラースクール



選手とファンとの撮影

評価・
マスコミ
紹介等

- ・各社新聞報道（中日新聞・朝日新聞等）（H31年1月～R1年5月、R2年10月）
- ・TV報道（H31年2月～R1年6月）
- ・BS日テレ「ツアー・オブ・ジャパン総集編」（R1年6月29日）等

お問合せ

教育委員会事務局 国体推進室
電話 0594-86-7847
FAX 0594-86-7860
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



「いなべの里の蕎麦」 全国への挑戦

地産地消推進事業

事業開始年月日 平成17年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

いなべ市では、平成14年度にそばの生産を開始しました。平成20年度には生産農家8軒が集まり、「いなべ市そば生産部会」を設立し、そば生産の基盤をつくりました。

64ヘクタールの作付面積は、三重県No.1。このそばの生産に加え、いなべ市そば祭りの開催等により、シティプロモーションの促進や地域の交流ツールとして、そば打ちが根付いてきています。

事業概要

中山間地域に面するいなべ市では、山間部を中心に猿、シカ、イノシシ等の獣害が増えつつあります。いなべ市では、獣害対策の一環として、そばの生産をはじめました。

美味しいそばが育つ条件は、そばの花が咲く時期から実が大きくなるまでの気候が冷涼で昼夜の気温差が大きいことです。いなべ市は、そばが実をつける秋頃がこの気候と非常に合致しています。またそばは、水が大の苦手です。灌漑用の溜池に頼る水田農業を行う地域では、この水の不便さを利用して栽培を行っています。

猿は非常に警戒心が強く、新しい食べ物を食べるには相当時間がかかります。新規生産物としてそばの生産を始めることにより、獣害にも強い農業基盤をつくれます。平成14年からそばの生産を始め、現在でも獣害によるそばへの被害はありません。

また地域課題解決というストーリーのあるそばをいなべ市のブランド産品に位置づけ、シティプロモーションや地域活性化に活かしています。

○いなべ市そば祭り

新そばの収穫時期（11月頃）に開催し、いなべ産新そば粉、そばの販売、そば打ち体験などを行っています。全国から多くの方にお越しいただき、そばによる交流が生まれています。

このイベントは、そば打ちの練習を行う市民の方のお披露目の場にもなっており、更なるそば打ち振興や交流を深める中で、イベントを機にそば打ちを始められる方など、そばを広める大きなきっかけとなっています。



そば畑



そばの花と手打ちそば



そば祭り 開会式



そば祭り そば打ち体験



そば祭り そば打ち名人



そば祭りの様子

評価・
マスコミ
紹介等

・R年年度 全国素人そば打ち段位認定いなべ大会開催(後援:一般社団法人全蕎協)

お問合せ

農林商工部 獣害対策課
電話 0594-86-7832
FAX 0594-86-7869
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



青川の清い流れと緑で…元気注入!

観光施設整備事業（青川峡キャンプパーク）

事業開始年月日 平成15年4月12日

こんなところが
“いなべブランド”

青川峡キャンプパークでは、充実したアウトドアの環境だけでなく、日頃アウトドアなど自然に触れ合う機会の少ない都市住民等の来客者に対して、家族向けやキャンプ初心者向けに各種レンタルセットや充実の施設を用意し、快適なアウトドア体験を提供しています。その中で、いなべ市の魅力を知ってもらうことで幅広いユーザーの確保と高いリピート率を誇り、年間約40,000人の方が訪れています。

事業概要

近年高まるアウトドア需要の中で、山登りでいなべ市を訪れた人は山に登って帰るといった単一的にアウトドアを楽しむだけでなく、山でクッキングを楽しんだり、山の材料を使って新たな遊び方を発見したり、地元の人々と交流したりといった多面的な観光事業を展開していくことが、重要となります。

そのため、いなべ市では、恵まれた自然環境を活かした都市農村交流施設として、平成16年度に青川峡キャンプパークを整備しました。これまでとは違った形のアウトドアライフ等の提案を行い、都市交流の拠点となる施設として利用することで、いなべ市のファンを増やす取り組みを行います。

○充実した施設

青川峡キャンプパークには、炊事場やシャワー室、清潔なサニタリー、それぞれの好みに合わせたオートキャンプサイト、雨でも安心な炭火焼ハウス（全天候型バーベキュー施設）等、充実した環境が整っており、キャンプ、アウトドア初心者の方でも身体一つで

来ても気軽に楽しめるようになっています。

小屋とウッドデッキでキャンプを楽しむ斬新なCABIN'Gサイトをはじめ、まるで別荘に泊まりに来たかのような豪華なコテージなど個性のある各宿泊施設も選べ、利用者のニーズに幅広く対応しています。

センターハウスには、アイテムを豊富に揃えたショップ、手ぶらでも道具が全て揃えられるレンタルルーム、浴場等が備わり、キャンプ初心者やこれから始める人をサポートする万全の環境が整っています。

青川峡キャンプパーク

いなべ市北勢町新町 614

電話 0594-72-8300

<http://www.aogawa.jp>



新たにオープンしたCABIN'Gサイト



テントサイト



キャンプ用品のレンタルルーム



施設内の小川

評価・
マスコミ
紹介等

- ・各テレビ、アウトドア雑誌にて多数紹介。
- ・BE-PALほんとうに気持ちいいキャンプ場100選出(2019版)
- ・オートキャンプ専門誌“ガルヴィ”人気キャンプ場ランキング西日本部門2019年、2020年1位

お問合せ

農林商工部 商工観光課
電話 0594-86-7833
FAX 0594-86-7869
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



農業公園発！ スローライフとロハスな暮らし

観光施設整備事業（いなべ市農業公園）

事業開始年月日 平成15年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

多くの地域の高齢者がいなべ市農業公園の管理等に従事しており、知恵を出し合い、地域とともに施設の活用を行っています。高齢者福祉及び活躍の場の創出、農業振興、循環型社会の実現等、農業公園の活用を通じて、様々な地域課題を相乗的に解決しています。

2月末から3月にかけて開催される梅まつりは、毎年80,000人もの入場者数を誇り、都市農村の交流に大きく貢献しています。

事業概要

高齢化の進むいなべ市では、高齢者の生きがいづくり対策と水源地として景観や水源を守る農業の多面的な機能を重視した、地域農業の確保が緊急に必要とされていました。そこで、特に高齢化の著しい藤原町鼎地区において荒廃農地を有効に活用して、都市農村交流拠点としていなべ市農業公園を整備しました。都市と農村との相互理解の促進、高齢者就業機会の確保、農地の新たな活用による特産品の開発、生産者の生きがい発揮による地域の活性化を図っています。

〇充実した施設

いなべ市農業公園は、東海地区最大級で約100種4,000本の梅の花がある梅林公園と、牡丹園、パークゴルフ場、農業公園レストラン「フラルール」等があるエコ福祉広場の2施設を合わせて農業公園といえます。

38ヘクタールの梅林公園では、3月に「梅まつり」、6月に「梅の実もぎとり体験」や「梅ジュースづくり体験」を開催しています。

18ヘクタールのエコ福祉広場では、4月下旬から5月上旬にかけて「ぼたんまつり」を開催しています。また子どもからお年寄りまで親子3世代で楽しめるパークゴルフ場や子ども広場が整備されています。お食事は、安全安心な地元野菜を中心としたビュッフェスタイルのレストラン「フラルール」があり、四季折々が楽しめる公園です。

令和3年にドッグラン付きオートキャンプ場を創設し、更なる交流促進につなげます。

地域の高齢者たちが知恵を出し合い、ゆっくり手作りで作りたいいなべ市農業公園で「見る、遊ぶ、食べる」といったスロースタイルを体験でき、癒しの空間となっています。

いなべ市農業公園
いなべ市藤原町鼎 3071
電話 0594-46-8377

<http://www.inabe-nougyoukouen.com/>



パークゴルフ場



梅林



牡丹園

評価・
マスコミ
紹介等

・NHK,CBC他3社で報道(H31年3月)

お問合せ

農林商工部 商工観光課
電話 0594-86-7833
FAX 0594-86-7869
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



まちづくりの拠点施設 にぎわいの森

グリーンクリエイティブいなべ事業

事業開始年月日 令和元年5月18日

こんなところが
「いなべブランド」

行政によるにぎわいの森のようなまちづくりの拠点整備の事例は、全国的にも非常に珍しく、多くの方からお問合せ、視察等を受けています。

グリーンクリエイティブいなべ（GCI）の理念による一歩先を行ったまちづくりを行うことでいなべ市の魅力発信、愛着醸成に繋げ、農業振興や生業・就農促進、商業・観光振興、市民協働の促進などの地域課題を相乗的に解決しています。

事業概要

都市部に流出する若者が「いなべ」を選び定住するためには、従来の行政サービスの向上・改善活動以外に、若者が魅力と可能性を感じられる場（仕事や生活を楽しむ生活産業など）を創出する必要があります。

いなべ市は、GCIをキャッチフレーズに、市の強みを活かし、特に若者にとって魅力あるまちづくり、都市住民を惹きつけるまちづくりプロジェクトを平成27年度から始めました。この事業では、農と食やアウトドアなどいなべの資源を「グリーン」と定義し、若者や都市住民を魅了するものに磨き上げ、市に新たな人の流れをつくることを目的としています。また、地域資源を素材にいなべで起業・創業できる人を発掘し、サポートする生業促進を行い、地域産業を創出しようとするものです。

このGCIの理念に基づいたまちづくりの拠点として、令和元年5月ににぎわいの森を整備しました。にぎわいの森は、単なる誘客のための商業施設ではなく、農業振興や生業・就農促進、商業・観光振興、

市民協働の促進など、まちづくり、ひとづくりの拠点として位置づけられています。

にぎわいの森には、農と食の分野において、業界屈指の5つの飲食店と1つの試験農園があります。この6店舗は、もともと名古屋、大阪で店を構えており、GCIの理念に共感し、出店された方々です。野菜やお米等の地元産品を活かした独自の商品開発や提供を行い、いなべの品質の良い食材に付加価値をつけることで、農作物の販路拡大等による地域経済循環の促進を図っています。この事業は、地域雇用の創出にも繋がっており、いなべ市では、この6店舗を移住・生業のモデルケースとして紹介することで、いなべでのライフスタイルの紹介や魅力発信から移住・生業の創出に繋げています。

またにぎわいの森では、市民協働のまちづくりを進めるため、様々な取り組みを行っています。市民参画イベントの実施やまちづくりについて語り合える場を創出し、地域内交流やまちづくりへの参画意識の醸成を図っています。



にぎわいの森



イベントの様子



にぎわいの森のお店



にぎわいの森で提供される地域食材を使った料理

評価・
マスコミ
紹介等

- ・東海ウォーカー掲載(R2年9月20日)
- ・ZIP-FM「High! MORNING!」(R2年11月2日)
- ・NHK「おはよう東海」(R3年2月18日)
- ・東海じゃらん掲載(R3年3月1日)
- など

お問合せ

農林商工部 商工観光課
電話 0594-86-7833
FAX 0594-86-7869
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



リンクでつなげよう 市民の輪

情報誌発行事業

事業開始年月日 平成15年12月1日

こんなところが
“いなべブランド”

高齢化の進行、外国人の割合増加などの情報発信におけるダイバーシティの確立は必要になってきます。

広報誌「リンク」では、ユニバーサルデザインフォントを導入し、高齢者や弱視の人にも伝わりやすくしています。また、日本語コンテンツを9言語へ自動翻訳する機能を搭載した多言語デジタルアプリも導入し、外国語での表記や読み上げにも対応することで、外国人への情報発信も強化しています。

事業概要

人口減少の進行等、厳しい社会環境の変化に対応していくためには、市民一人一人がまちづくりに理解、関心を持ち、参画を促していく必要があります。いなべ市では、市民に市政への関心を持ってもらえるように、市の広報ツールとして、広報誌を発行しています。

いなべ市の広報誌は、平成15年12月の合併以来、きずな・輪・つながりを意味した「リンク」という愛称で、毎月1回約1万3千部の発行を続けています。

編集作業は、外部企業へ委託するのではなく、市民に近く、地域の状況を肌で感じている市の職員が行い、リアルな地域の情報や複雑な制度による行政サービスを分かりやすく伝えるため、日々、改善意識を持って作成しています。

○広報誌「リンク」の特徴

思わず手に取ってしまう表紙のデザイン、次のページをめくらずにはいられない、最後まで読ませてし

まう「特集」、必要な情報を分かりやすく提供する「PickUp」と「くらしの情報」コーナー等、コーナーごとにメリハリをつけ、“伝わる広報”を目指しています。

○若者のまちづくり参画促進

若者のまちづくりへの参画意識の醸成の取り組みの一環として、令和元年に、地元の高校と協働で表紙のロゴデザインのリニューアルを行いました。

○ユニバーサルデザインの書体導入

誰にでも読みやすい広報誌を目指して、ユニバーサルデザインフォントを使用しています。

○Web媒体の活用

発行に合わせてインターネットでも見られるように、市のホームページに掲載しているほか、多言語・音声読み上げ機能を備えたスマートフォンアプリ「カタログポケット」を導入し、より多くの人に情報が届くよう取り組みを進めています。



表紙



特集



いきいきマイタウン



カタログポケットの紹介

評価・
マスコミ
紹介等

・三重県広報コンクール
平成30年度 組み写真部門 特選
令和元年度 広報紙・一枚写真・組み写真部門 特選
令和2年度 広報紙部門 特選

お問合せ

企画部 広報秘書課
電話 0594-86-7740
FAX 0594-86-7857
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



Web を活用した クロスコミュニケーション

ホームページ事業（映像配信）

事業開始年月日 平成19年10月1日

こんなところが
“いなべブランド”

動画投稿サイト「YouTube」を活用することで、ページ管理に手間をかけることなく、地域情報の発信を行っています。YouTube を活用した映像配信の取り組みは全国で2番目、自治体ホームページとの体系的な連携は全国初の取り組みであり、地域ニーズを把握し、多くの人になべの魅力をお届けられるよう日々、業務に取り組んでいます。

近年では、「Instagram」や「Twitter」を活用したクロスコミュニケーションによる情報発信にも努めています。

事 業 概 要

情報通信技術（ICT）の進歩に伴う高度情勢化、デジタル社会の進展により、市民の情報取得の方法も多様化しており、それに対応した情報発信をしていく必要があります。特に若い人はSNSや映像配信などweb媒体による情報収集を行っています。いなべ市では、市民ニーズにあった情報発信を行い、老若男女すべての人に市政への関心を持ってもらえるように、ツールの一つとして、YouTubeによる映像配信を行っています。

YouTubeには、テレビ放送によるいなべ市の情報発信番組「いなべ10」のほか、いなべ市PR関連など、毎月10本程度の動画を配信しています。

この豊富な動画の中から、視聴者が望む情報をすばやくキャッチできるようにカテゴリーを分けるなど、工夫を凝らしています。

いなべ市のホームページでは、YouTubeに投稿した最新映像をはじめ、これまで投稿された映像のキャプチャ画像を表示させ、ホームページ、YouTube双方からのアクセスを可能にすることで、効果的な広報を行っています。

また、Instagramでは、「#いなべ探し」とタグをつけ、いなべの魅力を伝え、Twitterではイベント情報だけでなく、情報誌「リンク」とも連携したクロスコミュニケーションを図っています。



いなべ市ホームページ



YouTube サイトのいなべ市チャンネル

評価・
マスコミ
紹介等

・三重県広報コンクール映像部門
平成30年度 入選
令和元年度 入選
令和2年度 入選

お問合せ

企画部 広報秘書課
電話 0594-86-7740
FAX 0594-86-7857
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



先進的文書管理 「ファイリングシステム」

文書管理適正化事業

事業開始年月日 平成17年3月1日

こんなところが
“いなべブランド”

ファイリングシステムは、平成23年4月に施行された公文書管理法に基づくガイドラインに則したものです。いなべ市では、平成16年度から導入しており、ガイドラインができる前から全国に先駆けて、実施しています。県内の自治体の中でも、初めて導入した自治体です。

また統一したルールの中で、書類が保管されているため、担当者が不在の時でも素早く情報提供ができ、住民サービスの向上にも繋がっています。

事業概要

行政運営を行う上で、多くの個人情報を取り扱うため、発生から廃棄まで徹底した文書管理やセキュリティ対策が求められています。

いなべ市では、現在及び将来の市民に対する説明責任を果たし、市政の透明性を高めるとともに市民共有の財産である公文書を適切に管理するため、平成16年度よりファイリングシステムを導入しています。

ファイリングシステムとは、個別フォルダとキャビネットを活用した文書管理システムで、一般的な薄冊によるものと比較して、検索性・セキュリティに非常に優れたシステムです。

具体的な管理方法は、文書の発生から、保管、保存、廃棄までを記録する「ファイル基準表」を作成し、年度ごとに管理を行います。3段式のキャビネットを利用し、上段2段に現年度の文書、一番下の段には前年度の文書が整理されています。前々年度以降は保管場所がわかるようにし、書庫で保管します。平成30年2月には、文書管理ソフトを導入し、更なる文書管理体制を構築しました。

このファイリングシステムを導入することで、事務室内の収納効率の向上、情報漏洩の防止対策の徹底、書類検索の時間短縮など、業務効率の改善に繋がっています。

【導入前】



書類があちこちに置かれています。



薄冊に綴じ込まれた文書は、担当者でも探すのが大変でした。

【導入後】



担当者でなくても、必要な文書をキャビネットからすぐに探し出せます。



文書管理ソフトで文書の発生から廃棄まで正確に管理できます。



2年以上前の書類も書庫で整理して保存されているため、すぐに取り出せます。



スッキリとした執務環境で、仕事の効率も上がります。

評価・
マスコミ
紹介等

【行政視察受入実績】
静岡県菊川市(R元年)
愛知県常滑市(R元年)

お問合せ

企画部 法務情報課
電話 0594-86-7743
FAX 0594-86-7858
住所 いなべ市北勢町阿下喜31

MEMO

A large rectangular area defined by a dashed green border, intended for writing a memo.

THIS IS INABE BRAND

終了した
ブランド
事業

みんなでサポート「働く笑顔」

障がい者就労支援事業

事業終了年月日 平成 27 年 3 月 31 日 お問い合わせ 福祉部 社会福祉課 0594-86-7816

※平成28年度に就労支援事業所が出来たことから、事業を移管しました。
相談業務は「障がい者相談支援センターそういん」に委託しています。

事業概要

一般就労が難しいとされる障がい者の就労を支援するため、仕事を体験する機会（職場実習の場）を確保し、就職、復職、職場適応に向けた支援を行います。職場実習をとおして、さまざまな仕事の経験や働く準備をすることで、社会的自立を目指すとともに、地域で豊かにいきいきとした生活を送るための支援をします。

ホタルの里づくり

立田小学校ホタルの里づくり事業

事業終了年月日 平成 29 年 3 月 31 日 お問い合わせ 教育委員会事務局 学校教育課 0594-86-7844

※立田小学校は小学校の統廃合により、平成29年3月31日に閉校しました。

事業概要

立田小学校では、児童の主體的な探求活動として「ホタルの里づくり」に取り組んできました。揖斐川の源流の一つである赤尾川、地域の用水やビオトープの研究、幼虫の繁殖・放流等を行い、ホタルが育つ環境保全を地域とともに進めます。

学校と地域が取り組む花壇づくり

中里小学校花づくり事業

事業終了年月日 平成 29 年 3 月 31 日 お問い合わせ 教育委員会事務局 学校教育課 0594-86-7844

※中里小学校は小学校の統廃合により、平成29年3月31日に閉校しました。

事業概要

中里小学校は、約 40 年間 FBC（フラワーブラボーコンクール）に参加しています。小学 5 年生の児童が中心となって活動し、発送された種のみを使用して、コンクールに臨みます。児童が育てた苗を使って、保護者や地域の人々をはじめ老人ホーム等へも花を届ける等、地域との交流を深めています。

できることから始める環境教育

貝弁中学校環境教育推進事業

事業終了年月日

平成 29 年 3 月 31 日

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課 0594-86-7844

※H29年度をもって、生徒主導による環境教育は終了しました。

事業概要

夏季に、校舎南側につる性の植物を育て、日陰を作るとともに、気化熱により熱放射を抑制し、室内温度を下げています。この「緑のカーテン」は、教室環境を整えるとともに、安易に電気エネルギー等を利用せず自然の力を活用することを通して「自分でできること」を考え、「持続可能な社会づくり」の一端を担う生徒を育てます。

全国1位※の電子市役所

※人口5万人未満の自治体で

電子市役所推進事業

事業終了年月日

平成 29 年 3 月 31 日

お問合せ

企画部 法務情報課 0594-86-7743

※ランキングが古いデータであることから、既存ブランド事業からページを移行しました。

事業概要

いなべ市では、HP から電子申請、クレジット納付や公共施設の予約等各種オンラインサービスが利用できる等、電子市役所として利便性を高めています。また、生活に役立つ情報を配信するメール配信サービスや、平成 26 年度からは、全国のコンビニエンスストアで住民票や納税証明書等を取得できるサービスも開始しました。市役所内においてもセキュリティポリシーの策定やセキュリティ教育等の情報漏洩対策を実施し、全国的に評価されています。

三重県モデル いなべの集落農業

集落組織づくり推進支援事業

事業終了年月日

平成 22 年 3 月 31 日

お問合せ

農林商工部 農林課 0594-86-7831

※事業実施により、集落支援農業体制が確立されたため、既存ブランド事業からページを移行しました。

事業概要

農事従事者の高齢化、耕作放棄地の増加、若者の地域離れという課題を解決するため、いなべ市独自の集落営農の仕組みをつくり上げました。市、JA、県の担当者が市内全ての集落に出向き、地域住民と各集落農業の現状と将来像を共有する「座談会」を平成 16 年に、集落の農業を全員で力を合わせ守っていく仕組みである「集落ぐるみの農業生産体制」を確立するため、いなべ市「集落組織づくり推進支援事業」を平成 17 年度からスタートしました。

「元気づくり」は「地域づくり」！ いなべから全国へ

元気づくりシステム全国発信事業

事業終了年月日 令和3年3月31日 お問い合わせ 福祉部 長寿福祉課 0594-86-7819

※(一社)元気づくり大学により「元気づくりシステム」の全国発信が開始されたため、事業を終了しました。

事業概要

待ったなしの高齢化対策は、国や全国自治体における重要な課題の一つです。元気づくりシステムは、医療費抑制や、健康増進・介護予防等の公衆衛生の観点、さらには地域づくりの観点から住民の力を活用した超高齢化社会の切り札として、全国から注目を浴びています。

この元気づくりシステムが全国の自治体等で導入され、日本国民のための元気づくりシステムへと展開されるよう産官学民で協働し全国発信しています。

どの子どもわかり 参加できる授業づくり

山郷小学校特別支援教育

事業終了年月日 令和3年3月31日 お問い合わせ 教育委員会事務局 学校教育課 0594-86-7819

※山郷小学校だけでなく、全校的にこの取り組みが広がってきたため、終了しました。

事業概要

いなべ市の小学校では、特別が見えない特別支援教育として、どの子どもわかる・参加できる授業づくりを教師が意識し、障がいのある生徒への教育にとどまらず、がいの有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々がいきいきと活躍できる共生社会形成の基礎を授業の中で培っています。

また特別支援教育での学びを深めるため、ユニバーサルデザインの授業を行い、体系的に共生社会への理解を深めています。

THIS IS INABE BRAND

いなべ市に
ついて

いなべ市について



三重県の北の玄関口に位置するいなべ市は、北に養老山地、西に鈴鹿山脈をいただき、田園地帯が広がる緑豊かなまち。花の百名山「藤原岳」、笹原の「竜ヶ岳」、滝巡りの「宇賀溪」、西日本屈指の人気を誇る「青川峡キャンプパーク」等、豊かな自然が育むアウトドアスポットが満載です。また、日本でたった3路線しかない線路幅762ミリの「北勢線」が走るまちでもあります。

1世紀の時を刻むように、かわいい黄色の電車はのんびりと走り続けています。

ブランドの目的

既存ブランド事業

いなべ市
終了した
ブランド事業

いなべ市について



アルファード (ALPHARD)



いなべ市は良質米やお茶の産地として知られる一方で、自動車関連企業等も立地し、活力のあるまちとして発展を続けています。令和元年には、新庁舎及びにぎわいの森が開業する等、更なる飛躍が期待されています。

いなべ市は、市民がいきいきと暮らす活気に溢れたまちです。今後も地域を誇りに思い、ふるさとへの愛着を育むまちづくり、市民が主役のまちづくりを進めていきます。

いなべ市のすがた

項 目		単位	いなべ市	調査年又は調査年度	備 考
総面積		km ²	219.83	平成26年度	一部境界未定のため概算数値です。
総人口		人	45,815	平成27年	平成27年国勢調査
人口密度		人 / km ²	208	平成27年	総面積1 km ² 当たり 平成27年国勢調査人口 ÷ 総面積
人口増減		%	100.2	平成27年	平成27年国勢調査人口 ÷ 平成22年国勢調査人口
世帯数		世帯	17,106	平成27年	平成27年国勢調査
1世帯当たり人員		人	2.68	平成27年	平成27年国勢調査人口 ÷ 平成27年国勢調査世帯数
財 政	決算額	千円	21,217,326	令和2年度	令和元年度一般会計歳出決算額
	標準財政規模	千円	13,387,118	令和2年度	令和元年度地方財政状況調査
	財政力指数		0.85	令和2年度	
	経常収支比率	%	93.5	令和2年度	
	実質公債比率	%	7.5	令和2年度	
出生数		人	299	令和元年 (令和2年)	住民基本台帳人口 (令和元年10月1日～ 令和2年9月30日)
死亡数		人	507	令和元年 (令和2年)	
転入者数		人	2,196	令和元年 (令和2年)	
転出者数		人	2,124	令和元年 (令和2年)	
事業所	事業所数	事業所	1,841	平成28年	平成28年経済センサス活動調査
	従業者数	人	28,960	平成28年	
農 業	農家数	戸	1,001	平成27年	平成27年農林業センサス
	耕地面積	ha	2,127	平成27年	
工 業	事業所数	事業所	172	平成30年	平成30年工業統計調査 (従業者4人以上の事業所)
	従業者数	人	18,339	平成30年	
	製造品出荷額等	万円	141,597,665	平成30年	
商 業	商店数	事業所	330	平成28年	平成28年経済センサス活動調査
	商業従事者数	人	2,058	平成28年	
	年間商品販売額	百万円	44,698	平成28年	
学 校	小学校数	校	11	令和2年度	令和2年度いなべ市教育要覧
	小学校児童数	人	2,305	令和2年度	
	中学校数	校	4	令和2年度	
	中学校生徒数	人	1,192	令和2年度	
医 療	病院数	院	4	令和元年度	令和2年度桑名保健所年報 (令和元年度実績)
	一般診療所数	所	24	令和元年度	
	歯科診療所数	所	16	令和元年度	
	医師数	人	75	平成30年	
	歯科医師数	人	18	平成30年	
	看護師数	人	406	平成30年	
	准看護師数	人	104	平成30年	
	薬剤師数	人	76	平成30年	

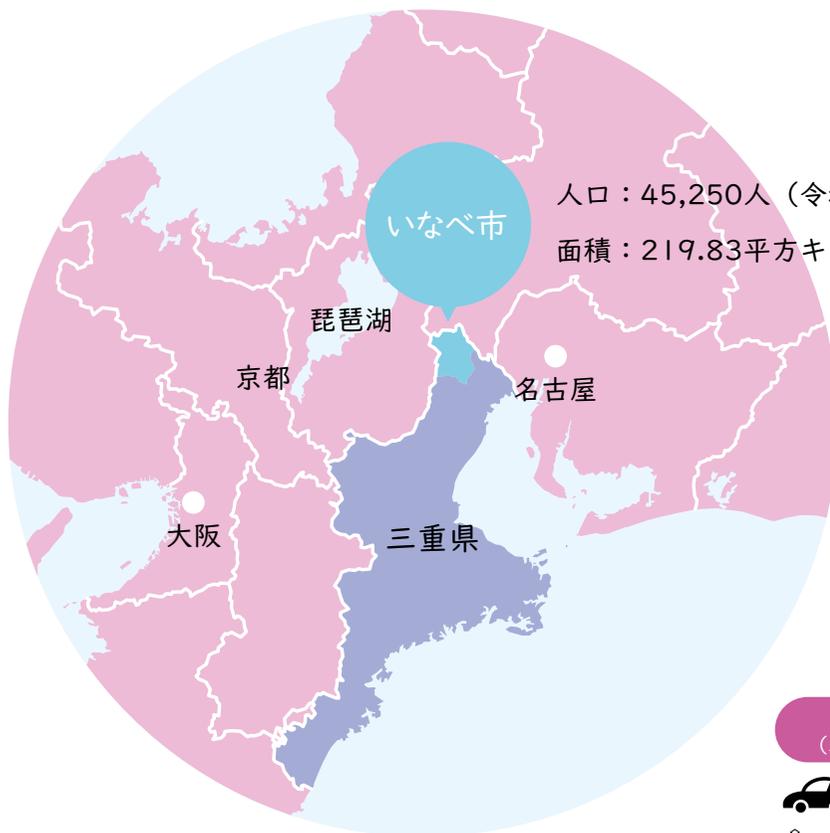
年は暦歴（1月から12月）、年度は会計年度（4月から翌年3月）を示します。

ブランドの目的

既存ブランド事業

いなべ市終了したブランド事業

いなべ市について



人口：45,250人（令和3年4月1日）

面積：219.83平方キロメートル

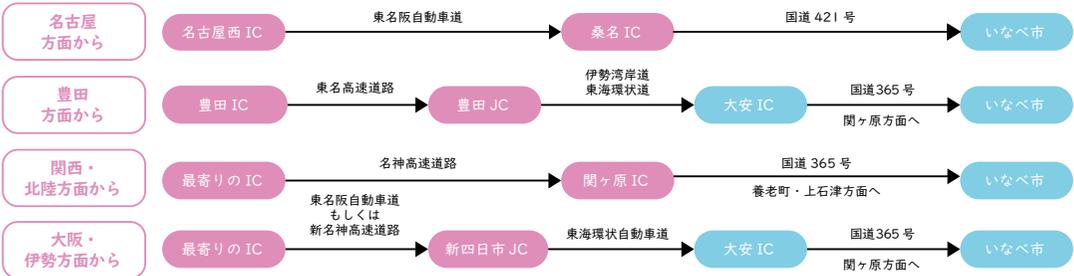
所要時間
(名古屋市～いなべ市)

 自動車：50分

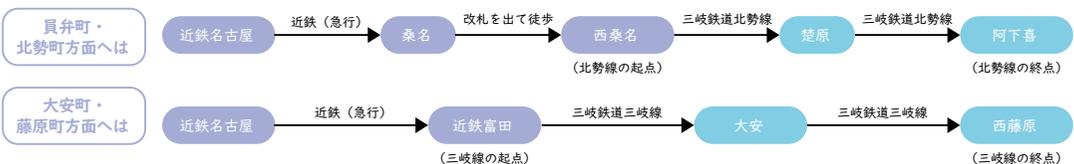
 電車：50分

交通のご案内

お車のご利用



電車のご利用



★時刻等についてのお問合せ
 ・近鉄桑名駅 電話 0594-22-0045 ・近鉄富田駅 電話 059-365-0300 ・三岐鉄道 電話 059-364-2141 ・三重交通 電話 0594-72-2469



INABE BRAND 2021

発行日 令和3年4月15日

発行 いなべ市

編集 企画部政策課

〒511-0498 三重県いなべ市北勢町阿下喜 31 番地

電話 0594-86-7741

HP <https://www.city.inabe.mie.jp/>





いなべブランド
since 2005